

自閉症の子どもたちと
アーティストのコラボレーション

言葉を 越えて 展



自閉症という、言葉におけるコミュニケーション障害を持つ子供たち。

彼らの絵を土台に描かれた、言葉を越えたコミュニケーション。

今の私達の文明は、言葉によって支えられています。しかし、もし言葉が通用しない世界があったら、私たちは、どんな手段を使って人と接し、どう触れあい、そして何を考えていくのでしょうか。

自閉症の子供たち、そして彼らの描く『絵』を通じて、私たちは私たちの築きあげたもの、失ってしまったものについて、感じ取り、考えていきたい。

文部科学大臣 下村博文 流山市教育委員会 推薦

2013年7月10日(水)→7月18日(木)

会場:流山市生涯学習センター

〒270-0153千葉県流山市中110番地

電話04-7150-7474

10:00~21:00

(最終日は17:00まで)7月17日(水)休館日 入場無料



私たちは自閉症の人たちが、絵画を通して、自分の力と魅力で生き、認められ、社会に戻っていく可能性を探しています。

主催=「言葉を越えて」プロジェクト実行委員会 共催=流山市生涯学習センター指定管理者アクティオ株式会社、北京自閉症児童康復協会(北京自閉症協会) AOArt 協力(順不動)=アートチャイルド(ユネスコ)、文部科学大臣 下村博文、日本画家 藤島博文氏(文化庁文化芸術立国実現のための懇話会委員)、日本自閉症協会、中国 사회복지基金会、社会福祉法人 けやきの郷、社会福祉法人 嬉泉、798文化会社、798管理委員会、北京大学第六病院、江戸川大学、江戸川大学現代社会科学科教授 恵小百合、ロンドン芸術大学、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチン所屬 BAFA担当ステファン・カーター、ウソン大学(韓国)、Kim Hye-Kyun, Professor, Department of beauty design, Wooson University(Korea)、ウソン大学 中村虎彰准教授(韓国)、The Academy of Home Educator(London)、The Academy of Home Educator Head of Japanese Language キッド・石堂莉奈、国際交流基金 田中弘子、本州団地元気会会長 野口義夫、流山新選組隊 松下英治、楠山栄子、北村佳代子 後援(順不同)=中華人民共和国駐日本国大使館文化部、流山市教育委員会、人民日報海外版、人民日報海外版日中新聞、国際交流基金、発達障害療育研究会、国連世界都市科学発展連盟中西文化促進会、EMP Hoffer Launay(France)、チャイナネット(中国網)、清華大学美術学院絵画学科、北京大学生命科学学院、Sandra Lam Honorary Career Counselor The University of Hong Kong、中国全国婦人連合会・婦人研究所、Greater China Club(AM)、中国少年兒童造型芸術学会、雑誌「映歌踊り」雑誌「八小時以外」(「八時間以外」)

今、世界に、「言葉」に障害を持つ子供達の絵を真ん中にした、小さな、でもとても大きな輪が、できつつあります。

それは、自閉症の子供たちが創る、明るく力強い絵画世界と、それに魅了された、人種や国境を越えた様々な人々が作りはじめた輪です。

今回の流山市での展示では、北京の自閉症の子供達と、日本・イギリス・中国のアーティストや美術学校の学生達が合作した、幅4メートル、高さ1.2メートルの絵が3点展示されます。またこの他に、流山市を含む日本・北京をはじめとした4カ国の自閉症の方達・子供たちの作品や、参加したアーティスト達の作品も展示されます。

「言葉を越えて」プロジェクトでは、コラボレーションによるこれらの作品を、壁にではなく、人々の暖かな手で支え持つ、というイベントも行っています。すでにロンドンでは、ウエストミンスター寺院前やトラファルガー広場（全14ヶ所）で、たくさんのロンドン市民の手に持たれました。北京では、8月10日に、24時間持ち続けるパフォーマンスも行います。流山市でも、ロンドンと同様のイベントを行いました。

自閉症の子供たちの絵を中心にした、この輪の中に、みなさんも入ってみませんか？
作品の鑑賞やイベントを介してご参加いただけますよう、謹んでお願い申し上げます。

コラボレーション作品の制作、及び制作協力

北京の自閉症の子供達120名、春暁(歌手・女優・モデル)、石原李華(AOAart主催 北京清華大学芸術学院卒)
藤島大千(日本画家 NHK水戸文化センター日本画講師、流山市生涯学習センター「やさしい日本画講座」講師)
下村雄飛(University of London, London Collage of Fashion, Fashion illustration)
飯泉あやめ(武蔵野美術大学卒)、高橋真知子(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修士 認定心理士)
鬼木香(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 芸術専攻 日本画コース卒)
石堂莉奈 和田久美 藤井佳代子 (The Academy of home Educators所属教師たち)
パオロ クラウディア ジャニー アナ他、(The Academy of home Educators所属生徒たち9名)林素如(BA Fine Art at Central Saint Martins College of Art & Design)
小林勇輝(BA Fine Art at Central Saint Martins College of Art & Design)
梁子扶(Performance Design and Practice at Central Saint Martins College of Art & Design)
Professor Kim Hye-Kyun (Woosong University Head of Beauty Design Department)、田中弘子(国際交流基金)

※今回のプロジェクトによせて、文部科学大臣 下村博文、流山市長井崎義治、日本画家藤島博文氏(文化庁文化芸術立国実現のための懇話会委員)、春暁さん(中国の女優・スーパーモデル・歌手)から、暖かなメッセージを頂きました。展示会場にて掲示させていただきます。

ワークショップ

7月14日(日)

14時～15時30分

一般の子供たちと自閉症を含めた障害者の方たち、そしてアーティスト達を交えたワークショップを行います。幅4メートル、高さ1.2メートルのキャンバス2枚に、絵を描いていきます。制作された絵は、北京で展示された後、オークションに出品されます。落札された場合、そのお金は、日本と中国の自閉症の子供達のために使われます。また、これらの絵は、オークション落札の有無にかかわらず、ユネスコのArt Childによって展示されます。(Art Child ホームページ <http://www.artchild.org/en>)

ギャラリー・トーク

7月15日(月・祝)

14時～15時

自閉症とは何かを、簡単なパフォーマンスを通して参加者の皆さんに体験してもらいつつ、今回の企画に参加した、若手アーティスト達とロンドンの美術学校の学生による、ギャラリー・トークを行います。

※オークションについて：AOAartでは、自閉症の子供達の将来における自立を目指し、作品の展示だけでなく、芸術・美術品のオークションへの参加を積極的に行っています。

流山市生涯学習センター

【開催時間】午前10時～午後6時

【アクセス】・電車つくばエクスプレス「流山セントラルパーク駅」から徒歩3分

・バス「流山セントラルパーク駅」バス停から徒歩3分

◎南柏駅から◎柏駅西口から◎流山駅東口から

【お問合せ】流山市生涯学習センター 04-7150-7474

